

第 153 回 東葛しぜん観察会

印西の谷津で秋を見つけよう！

片岡真智子（野田市）

日 時：2018年11月4日（日）9時30分～12時30分 天気：曇り

場 所：千葉NT～浦幡新田公園～浦部川の谷津田（印西市）

参加者：39名（大人32名、子ども7名） 指導者19名、

担当指導員：小川・片岡・高橋

観察日が迫っているのに参加の申し込みが少なく心配しましたが、知人や会員が声掛けをして下さり、当日の参加者は30名（当日キャンセル有）。更にNPO法人「森の学校」のキャンプのプログラムに取り入れていただき、子ども5名スタッフ4名の参加があり、うれしい悲鳴です。

千葉ニュータウンは入居開始から36年。今では駅前には高層のビルやマンションが立ち並んでいます。観察コースは台地の上にある整備された住宅地や公園を通り過ぎ、坂を下ると広がる谷津田まで、「晩秋」を楽しむことにしました。

立冬を3日後に控えた11月4日、曇り空の中、ちらりと青空も見えました。最初の観察場所の住宅地や公園ではケヤキの落ち葉、クスノキの香りやダニ部屋、アオツツラフジの実、ドングリのなる木々、メタセコイアの雄花や実、ユリノキなどの植物、ウラギンシジミ、アオスジアゲハの蛹、ヒロヘリアオイラガの繭（出た後）、アカボシゴマダラの幼虫などの昆虫と観察するものが多く大幅にタイムオーバーし、サブリーダーをヤキモキさせてしまいました。

谷津田ではカラスウリ、ヤマノイモ、くつつきムシ、スズバチの巣を見つけました。アリジゴクを見つけて歓声を上げる子どもたちの声が楽しそうでした。

浦部川の多自然型川づくりの説明の際に、川づくりに携わった方（印西市の住民）が経緯や亀成川との比較等、詳しく補足してくださいました。ゴマダラチョウの姿をあまり見かけなくなったのは、調査の結果、全国的に個体数が減っているのが原因だと、生物学者の方に教えていただきました。地元を知り尽くした方々や生物学の先生にも、私の拙い説明にきちんと耳を傾けていただき、さりげなくフォローして下さる暖かい心配りに、とても有難く思いました。

当日の夜には「森の学校」のスタッフから子どもさんたちがとても楽しまれた様子の詳しい報告が届きました。東葛会員のみなさんに安全に配慮し、楽しい観察会になるよう、力添えをしていただきました。担当者一同「感謝」の一語に尽きます。



捕まえた虫をプラカップに入れて皆で観察



スズメノショウベンタゴ(雀の小便担桶)